

男	性	保	育	士	♠	♥
イ	ン	タ	ビ	ュ	ー	

女性が多いイメージのある保育業界。今回は、そういったイメージのある保育の世界で活躍している男性の保育士にお話を伺いました。



社会福祉法人こぼと
小鳩スマート保育所上池台
吉山健太さん

Q：自己紹介をお願いします。

高野さん：越生保育園の高野です。

吉山さん：津久根区出身の吉山です。

大田区の(福)こぼと 小鳩スマート保育所で働いています。

Q：保育士になろうと思ったきっかけを教えてください。

高野さん：子どもは昔から好きでしたが、高校生の時は、理系のクラスに入り、子どもたちが楽しめる公園のデザインを考えたりにしていました。高校3年生の時、子どもと触れ合う機会があり、そこで子どもと話しをしたり、実際に一緒に遊ぶことに魅

力・やりがいを感じたのが保育士を目指すきっかけになりました。吉山さん：私は、高校は商業高校で、情報処理分野を学んでいました。一方で、町のジュニアリーダーとして子どもフェスティバルなどにも参加していて、子どもと触れ合ううちに、保育の仕事に興味を持ち始めました。保育の資格が取得できる大学に進学することを決め、入学後の実習でもやりがいを感じたので、保育士になりました。

Q：保育士になることを決めた当時の周囲の声は？

吉山さん：私も直接は言われませんでした。偏見を持たれてい

吉山さん：驚かれましたね。ですが、反対はされず、両親はむしろ応援してくれました。高野さん：私の親は、私が4年制大学に進学するものと思っていたので、保育士を目指すことを伝えるときはシヨックを受けていました。友達や学校の先生には背中を押してもらえました。でも、当時は保育士を目指す男性はほとんどいなかったため、偏見を持たれたり、否定されることもありました。

私がこの講演会に参加して、深く心に残ったことは、世の中には自身の性に違和感を持っている人が11人に1人の割合にいるということです。テレビでLGBT当事者が活躍している方を目にすることはありますが、それはほんの一部で、多くのLGBT当事者は、カミングアウトできずに苦しんでいるという現状があるそうです。私自身、身の回りにカミングアウ

男女共生フォーラムに参加して

2月1日、中央公民館視聴覚ホールで越生町男女共生フォーラムが開催され、LGBT当事者である齋喜逸江さんに「性同一性障害く自分らしく生きる」という演題で、ご講演いただきました。

この講演では、LGBTの当事者が普段感じていることや、私たちがどのように受け入れていけば良いかについて、齋喜さんご自身の経験を踏まえて説明していただきました。

私自身、身の回りにカミングアウ

ると感じることはありません。

Q…男性保育士ならではのエピソードを教えてください。

吉山さん…はじめは男性保育士に不安を感じる保護者もいます。

また、男性が苦手な子どももいます。そういった子どもや保護者が心を開いてくれた時はとてもうれしいです。

高野さん…そうですね。私は、保護者に対して、女性同士の方が伝えやすい、お願いしやすいことがあったり、逆に女性に対して、異性だから伝えやすいこともあったりします。

Q…女性保育士に対して感じることはありますか？

高野さん…女性保育士は、場面に



よって男性（お父さん）役ができるんです。それがすごいと感じますね。

吉山さん…そうですね。私たちが、女性役を演じようとする、どうしても無骨になってしまうので女性の凄さを感じます。

高野さん…あとは、越生保育園には男性は一人しかいません。

なので、女性職員に受け入れてもらっているという気持ちをもつて常に感謝して働いています。

Q…保育士を目指す男性に一言お願いします。

高野さん…子どもが好きな気持ち

があれば大丈夫。自分の気持ちを忘れずに頑張ってください。

やっておいた方が良い事は自分の引き出しをたくさん持つておくこと。子どもは一人ひとり個性があるので、様々な表現方法や趣味、特技などを持つておくの良いですよ。

吉山さん…今は保育士を目指す男性がいてもおかしくない時代です。男性を積極採用している職場もあります。「男性だから」「枠がないのでは」と気負わずに自分の気持ちを大切にして頑張ってください。



越生保育園

高野真吾さん

トしている人がいないので身近に感じたことはなく、深く考えたことがありませんでした。しかし、

今回の講演をとおして深く考えていかなければならない問題であることに気づかされました。「もし身近に悩んでいる人がいたら私は相談できる雰囲気を作れているか」と考えると、普段の振る舞いも改める必要性を感じます。

世の中には、性の分野に限らず様々な多様性があります。この多様性を私たち一人ひとりが認めることができれば、全ての人が幸せに生活できる世界が実現するはずです。そんな世界を実現するための第一歩を、この越生町から始められればと思っています。



男女共生推進会議
副会長 戸口昭一さん